母（1963）

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 日本
色彩 B&W
時間 100分
初公開日 1963/11/08

【解説】
新藤兼人が原作・脚本・美術・監督を担当した、戦後の広島を舞台とした女性の強さと母性を描く物語。乙羽信子、杉村春子、殿山泰司の熱演が強く印象に残る。
民子は一人息子の利夫を抱え、実家の母の家に身を寄せていた。一人目の夫を戦争で失い、二人目の夫の暴力に耐えかねて家を飛び出したのだった。利夫は脳に腫瘍があり、日に日に視力を失いつつあった。民子は田島という風采の上がらない男と再婚した。田島は印刷業を営む在日朝鮮人で、朝から晩まで単調な仕事をこなしていた。田島が費用を出してくれたおかげで、利夫は手術を受けることができた。民子は息子のためと我慢して田島に抱かれていたが、そのうち田島のことを本気で想うようになる。しかしそのころ利夫の腫瘍が再発してしまった。

【クレジット】
監督 新藤兼人
原作 新藤兼人
脚本 新藤兼人
撮影 黒田清巳
美術 新藤兼人
音楽 林光
出演 乙羽信子
杉村春子
殿山泰司
武智鉄二
高橋幸治
頭師佳孝
宮口精二
加藤武

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.